
はりぼて代表取締役

きりもんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

はりぼて代表取締役

【Nコード】

N3578E

【作者名】

きりもんじ

【あらすじ】

（シナリオ）映画村で木工土産品店を経営する松平は危機に瀕していた。息子と娘の大学進学は諦めたくないがついに経営破たん。突然の売掛金差し押さえに始まる面白家族の自己破産奮戦記。（作・きりもんじ）

執行官（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

執行官

○高級マンション、外、朝
田んぼの中の高層マンションの遠景。

○同、408号室、外、朝
松平の表札が見える。

○同、内、朝
松平が電話をしている。
妻の静子が足元で泣いている。

（松平）「裁判所ですか？もう執行官の方は出はりましたか？えつ、もう着く頃。そうですか。おおきに」
松平、受話器を置き泣いている静子をなだめながら、

（松平）「しゃあないなあ。お前が早よわしに言わんからや。差し押さえでも何でもしてもらおう。昨日の今日じゃ、もう間に合わん。・・・ほんまに」

松平、静子を立ち上がらせる。
（静子）「かんにんえ、とうちゃん」
（松平）「とにかくベランダからのぞいてみよ」
二人、ベランダへ向かう。

○同、ベランダ、朝
松平と静子が下をのぞいている。
下方に玄関口が見える。

黒塗りの乗用車が静かに止まる。
二人、不安げに顔を見合す。

○同、玄関口、外、朝
黒塗りの乗用車が止まる。

○同、車、外、朝
車の助手席が静かに開いて、パンチパーマ、
サングラス、紫色のスーツを着た小男が降りる。

運転席のドアが開き黒スーツで大柄な坊主頭が
降りてくる。後部ドアが開いて事務スーツの
女執行官が書類を抱えて降りてくる。

（女執行官）「さあ、行きましょうか！」
（坊主頭と紫スーツ）「ハイ！」

○同、408号室、内、朝
松平と静子、奥の仏間で正座して必死に祈っている。
（松平と静子）「南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経……」

○同、エレベータ、外、朝
エレベータの戸が開き、坊主頭、紫スーツ、女執行官現れる。

○同、408号室、外、朝
三人、408号室の前に立つ。
坊主頭、女執行官から書類を受け取り、目で確認して
インターホンを押す。

坊主頭、大きく息を吸ってから強く扉を叩く。

切文字屋（有）松平（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

切文字屋（有）松平

○マンション、内、朝

扉を激しくたたく音。

松平と静子、仏間から玄関へ。

松平が扉を開ける。静子、背後に隠れる。

（松平）「どうもご苦労様です」

（坊主頭）「松平静子さんはいますか？
裁判所から来ました」

静子、おびえながら、

（静子）「私が松平静子です」

（坊主頭）「あんたが静子さんでつか？」

坊主頭、松平を無視して手に持った督促状の束を静子の目先に差し出し、

（坊主頭）「これどないしてくれるんでつか？
１年以上何回催促してもなしのつぶて、借りたものは
ちゃんと返しなはれ。そうでなかったら！」

松平、話に割ってはいる。

（松平）「ちよつと待てや、わし・・・」

（坊主頭）「あんた誰や？」

（松平）「わ、わしは静子の亭主や。昨日の晩聞いたばかりで
何も手が打てへんかったが、わしが責任もって払うから。朝一番、
裁判所に電話したら、もうお宅らでたあとやったから待ってたんや」

（坊主頭）「あんた御主人？ほな静子さんの分責任もって
はろうてくれまんな？」

（松平）「ええ、もちろん」

（坊主頭）「ほなこの書類のここにサインしてもらえまつか」

松平、震える手でサインをする。

坊主頭、サインを確認して、

（坊主頭）「責任もって払ってくださいや！」

（松平）「はい、はらいます！」

（坊主頭）「ほな、行こか」

坊主頭、紫スーツに声をかけて玄関の扉を閉める。

○同、408号室、外、朝

坊主頭、書類を女執行官に渡す。

（女執行官）「じゃ、帰りましょうか！」

（坊主頭と紫スーツ）「はい！」

通路を歩む三人の後姿。

○タイトル

『はりぼて代表取締役』

○タイトルバック

京都嵐山の美しい風景。

○映画村、外、朝

映画村正面の全景。

○同、中央売店、内、朝

中央売店のハツ橋、漬物、京扇子、雑貨の従業員がおはよう
ございますと挨拶を交わしながら掃除やレジの準備をしている。
ガードマンが二人たっている。

○同、日本橋、朝

売店、開店準備をしている。

（金吾のナレーション）「映画村に5年前テナントとして
『切文字屋』（有）松平が出店した」

切文字屋（有）松平（後書き）

つづく

切文字屋（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしくお願いします。

切文字屋

○映画村、中村座前、朝
数人で掃除をしている。

（金吾のN）「社員三人の小さな店舗だが、
不況の影響で売上が激減してきた」

○同、仲見世、朝
各店舗が開店準備をしている。

（金吾のN）「進学を控えて家族会議を開いた」

（松平の声）「指定校の推薦を勝ち取って奨学金と
アルバイトで二人とも進学！生活の事は心配するな
ワッハッハ」

（金吾のN）「と決定したのだが・・・・・・」

○同、切文字屋、外、朝

化粧をしたとんがり頭の山上が糸鋸を切っている。

静子が釣銭袋を持つてくる。

（静子）「おはようさん。きょうライブ？」

（山上）「おはようございます。6時からミューズホールで
4時に上がっていいですか？」

静子、レジに釣銭を入れながら、

（静子）「ええ、いいわよ。まりっぺも行くんでしょ？」

（静子）「那智ちゃんと四条で待ち合わせと言っていました」

山上、顔を上げニコツと笑う。
ヘビメタの気味悪い厚化粧。

○マンション、408号室、内、夜

居間で松平が帳簿をつけている。

静子が夕食の支度をしている。

（松平）「今月も厳しいな。岡田木工もう少し待ってもらおう。
いつてももう四ヶ月や。はやいなあ」

（静子）「山上君にやめてもらうって私が糸鋸切ろうか？そしたら
私らだけやもん、かなり楽になると思う」

（松平）「そやかてすぐにはやめてくれへんで。それにお前、糸鋸
切れるか？何年も山上君とやってこれぽっちも切った事ないやろ」

（静子）「そうなりやあ、それこそ必死でやりますわいな」

（松平）「そやな。お前が店見てわしが外売り、これがベストやな。
山上君とまりっぺが早よくつついて故郷に帰れるように祈るかいな」
（静子）「それしかないな」

二人、大きくうなずきあう。

○ミューズホール、内、夜

強烈なサウンドで話もできない。
若者で満員。

四人のバンドでドラムを叩いている山上。
気味悪い化粧ととんがり頭でにっと笑う。

○映画村、切文字屋、外、夕

蛍の光がなっている。

素顔の山上、戸締りをしている。

静子、ため銭袋を持って、

(静子)「じゃ、入金行ってくるからね」

(山上)「はい、あとやっときます」

切文字屋（後書き）

つづく

まりっぺ（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしくお願いします。

まりっぺ

○映画村、関所、夕

静子、藤屋の社長と立ち話をしている。

（藤屋）「あかんやろ？」

（静子）「ぜんぜんだめ」

（藤屋）「うちもぜんぜんあかんわ。」

今月でタワーのほうは撤収や。人件費も出えへんしな。家族でこじんまりやるのが一番やで」

（静子）「そういつてもなかなか辞めてくれへんしな」

（藤屋）「そんなことないや。くびにしたらええがな」

（静子）「そうもいかんでなあ。生活かかってるやろうし」

（藤屋）「しつかり稼いで給料はろうたり」

（静子）「ほんまや、社員のために社長が借金しながら休みなしで働いてるみたいやなあ」

（藤屋）「ほんまやで。そやけど今が一番しんどい時や、そのうちきつとええことある。今しつかり辛抱しときや」

（静子）「おおきに、社長」

少し潤んでいる静子の目。

○同、西門守衛室前、夕
守衛室に守衛がいる。

静子、脇の自転車置き場から出てくる。

山上とまりっぺが待っている。

（静子）「おまたせ。ほな帰るか」

（守衛）「お疲れ様でした」

（三人）「おつかれさまでした！」

○撮影所、17スタジオ前、夕

スタジオ前を歩く三人。

（まりっぺ）「この間、ライブに来て頂いて

ありがとうございます。なっちゃんも金ちゃんも」

（静子）「二人ともあと耳が痛うて聞こえへん言う

とったわ。あいかわらずやね、まだずつと続けんの？」

（山上）「いや、もう京都に来て10年になりますし、そろそろ帰ろうかと思つてます」

○同、大道具作業場前、夕

三人歩いている。

静子は自転車を押している。

（静子）「ほんま？」

静子、うれしそうな悲しそうなあいまいな顔をして山上を見つめる。

○同、食堂前、夕

まりっぺ、にっこり笑って、

（まりっぺ）「そうなんです」

（山上とまりっぺ）「ぼくたち結婚することにしました！」

驚く静子。自転車を止めて、

（静子）「結婚！そりゃ、おめでとう！」

笑顔でたたずむ山上とまりっぺ。

侍姿、町娘姿の俳優がお疲れ様でしたと言って通り過ぎる。

。マンション、玄関口、外、夕

静子、自転車を置いて駆け込む。

。同、408号室、内、夕

扉が開いて静子があわただしく駆け込んでくる。

松平、電話帳をめくっている。

（松平）「どうした？あわてて？」

（静子）「山ちゃんがこの秋で仕事をやめて、

島根にまりっぺを連れて帰るそうや」

（松平）「そうか、ほな急がなあかな」

（静子）「え、なにを？」

（松平）「お前の特訓やがな。せめて山上君の半分
くらいの技術身につけてや、この二ヶ月で」

（静子）「そや、えらいこっちゃ、すっかり忘れてた」

まりっぺ(後書き)

つづく

那智ゲ（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしくお願いします。

那智ゲ

○京都会場、外

『バトンフラワー 京都大会』の看板。

○同、第一ホール、内

バトンの団体演技中である。

那智が中央にいて見事なフィニッシュ。

大拍手の観客の顔。

○同、楽屋、内

バトン部員が話している。

（友人1）「那智よかったやん。グー！」

（那智）「一回も落とさへんかったからね。
ラッキー！ほっとしたわ」

（友人2）「優勝したら全国大会。東京やね！」

（那智）「そうや、優勝したら東京や。えらいこっちゃ」

（友人1）「なんでやのん、那智？」

（那智）「今、うちの店つぶれそなんや。つぶれて
しもたら東京も大学もいけへん」

（友人2）「そや、今ぎょうさんつぶれてんで。夜逃げやら
首吊りやら何やらかんやら、大変なんやで実生活は」

（那智）「そやねん。そやからうち、バイトして
お金貯めてるねん。その時のために」

（友人1）「えらいなあ、那智ゲは」

(友人2) 「ひとごとやないであんたんとも」
(友人1) 「そ、そやな」

。同、外、夜

バトンを片手に制服姿の那智と友人1、2が出てくる。

(友人1) 「残念やったなあ」

(友人2) 「また今度頑張ろな」

(那智) 「ほなさいなら。バスで帰るし」
手を振って別れる。

。マンション、408号室、内、夜

静子、夕食の支度をしている。

松平、仏間で祈っている。

玄関が開き那智が帰ってくる。

(那智) 「ただいまー」

(静子) 「おかえり。大会どうだった？」

那智、靴を脱ぎながら、

(那智) 「今年も第三位。一回も落とさんかったのに
ざんねんやわー」

那智、居間を横切り自分の部屋へ入りながら、

(那智) 「そやけどええねん。全国大会やったら
東京に行かなあかんし、今うちんとこ大変なんやろ？」

静子、聞いていない。なべをテーブルに移しながら、

(静子) 「山ちゃん結婚するんやて！この秋に
まりっぺ連れて島根に帰ることになったんや」

（那智）「え？ほんま？」

那智、着替えて居間に出てくる。

（那智）「ねえねえ？どこで式あげんの？」

（静子）「春に島根で式挙げて、そのあと京都でお披露目会やて」
那智、手伝いながら、

（那智）「すごいやん。結婚やて。まりっぺ思い切ったなあ。

田舎暮らし、たいへんやおもつけどなあ」

（静子）「こまめにこっちへ帰ってくるんやて」

（那智）「そやろな。うちやったら耐えられへん」

奥の仏間で松平がずっと祈っている。

金吾が帰ってきて一家団欒夕餉のひと時。

（那智のN）「楽しい家族やのにいつも何かが欠けている。

そつやお金や！2年前に家族で上海に行った。クレジットで分割払い。

そのお金も払えんといって困っていた。残念、年頃やのに不景気が

重なってしもうた。それでも親は進学しろと言う。推薦もらえる

やろか？それよりお店大丈夫やるか？私にできることを

全力でやろう！そや、バイトやバイトや！」

那智ヶ(後書き)

つづく

金吾君（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

金吾君

○マンション、408号室、玄関、内
松平、紙袋に新聞を入れている。

静子、ビニール袋に水筒を入れている。

那智、靴を履いている。

（那智）「いつてきまーす！」

（静子）「はい、気をつけてね！」

（松平）「いつてきまーす！」

（静子）「今日は天津のホームセンターやったね？」

（松平）「そや。帰えんの7時」

（静子）「OK！いつてらっしゃーい！」

那智と松平玄関を開けて出て行く。

静子、靴をはく。

（静子）「金吾！ご飯テーブルの上においてあるからね。
午後からいつでも早めに起きてちゃんと食べていくのよ。
電話は絶対でないように！いいね！」

○同、金吾の部屋、内、

金吾、玄関トイレ前の部屋で寝ている。

（金吾）「ああ、わかった！」

○同、玄関

静子、玄関を開けて出て行く。

玄関の扉が閉まる。

。同、金吾の部屋、内

静かになって金吾がすやすやと眠っている。

電話が鳴る。

3回コールして留守電になる。

（電話の声）「家賃が3ヶ月たまっています。
何とかしていただかないと、出て行ってもらわ
なくてはなりません。至急連絡ください」

金吾、ゆっくりと寝返りをうつ。

しばらくしてまた電話が鳴る。

3回コールして留守電になる。

（電話の声）「こちらはアジア信販ですが。このまま
では法的手段に訴えざるを得ません。連絡を願います」
金吾、寝返りをうつ。

電話が鳴ってすぐ留守電、

（電話の声）「月末でガスが止まります」

金吾寝返りすぐ電話、

（電話の声）「こちら国民金融公庫ですが？」

金吾寝返りすぐ電話、

（電話の声）「社会保険事務所ですか？」

（ ） 「保証協会ですが？もしもし？」

（ ） 「税務署です。税務署です！」

金吾、ガバッとベッドから起きて、

（金吾）「うるさい！」

（静子の声）「金吾ちゃん。金吾ちゃん。起きた？」
金吾、受話器を取る。

（金吾）「ああ、今起きた」

（静子の声）「そう、じゃ、ちゃんとご飯食べてね」

（金吾）「ああ、わかった」

金吾が受話器を置くとすぐ電話。

金吾、思わず受話器を取る。

（電話の声）「金いつになったら返すんや？
ええかげんにせえよ？（ガチャ）」

金吾、ゆっくりと受話器を置く。

。同、1Fフロピー、

金吾、ポストボックスに立っている。

ボックスを開けて手紙の束を出す。

一つ一つ確かめる。

（金吾）「家賃、国金、銀行、保証協会、仕入れ、
車、保険事務所、税務署、電気、ガス、水道、電話、
サラ金、信販。こりゃあかんわ。・・・・・・
今晚詳しく聞いてみるか」

金吾、エレベータへ向かう。

金吾君（後書き）

つづく

借金一覧（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

借金一覧

○マンション、408号室居間、夜

金吾が正座して座っている。

松平と静子が座っている。

手紙の束が中央においてある。

（松平）「ここにある通りや金吾。詳しく言うたかてなあ。とにかく一覧表とつて来るわ」

松平、仏間からA3の用紙3枚を持ってくる。

（松平）「詳しくいうたらこれや金吾」

松平A3の用紙を見せながら、

（松平）「一枚目が会社分12社で600万円。

二枚目がわしの分で家賃も含めて8件500万円。

三枚目がお母さんの分でサラ金3社から200万円。

合計1300万円。どこやらの会社の何億円に比べりゃかわいいもんや。そやけど、個人で今すぐ返せと言われてもな・・・それはでけへん」

金吾、じつと用紙に目を通している。
皆、黙っている。

（金吾）「・・・・・・（涙）」

（松平）「どないしたんや？金吾」

（金吾）「僕、大学やめて働く」

松平、テーブルを叩いて叫ぶ。

（松平）「バカもん！」

静子、驚く。

金吾、泣いている。

（松平）「このくらいでビビっててどないするんじゃ！」

松平、用紙を手にして、

（松平）「わしらにはな、幸いなことに財産が一銭もないんじゃ。そやから差し押さえもでけへんのや。あんしんせえ。わしらもそうやが取るほうも景気がよくなるまで、じつと我慢で耐え忍ぶしかないんや」

松平、お茶をがぶりと飲む。

（松平）「一番大事な事は優先順位を間違わんことと絶対落ち込まんことや。

向こうさんは仕事やから次から次に矢の催促をしてくる。それはしやあない。

ぎりぎりのところでちょこっとだけ払うのがこつや。おかしなもんやな、

頭下げておおきにいうて帰りよる。気長うふてぶてしく付き合うことや」

金吾、まだ泣いている。

静子、じつと聞いている。

（松平）「さらに押し迫って借金取りが押しかけて来よつても、

心配するな。夜逃げせんでも首くらんでも奥の手がある。
学校諦めたら、もともこもないやないか、そやる？」

金吾、泣きながらうなずく。

（松平）「元気出せよ、将来の跡取り社長やから。
よろしくたのんまつせ！もうすぐそうなる」

松平、金吾の肩を叩き、
立ち上がると電話をかけ始める。
静子、金吾の背を押し部屋へやる。

（松平）「（電話）まいど。長いこと出張ですんませんな。
ちよつと入金が遅れとったんで今からとりあえず、
一か月分振り込んどきますわ」

松平、電話を切るとまたすぐかけ始める。

（松平）「まいど。すんませんなおそなつて」

（金吾のN）「これから続く修羅場の本番にはとても
耐え切れそうにない。大学を辞めて働いたほうが気が楽かも？
それでもよく考えると、家族全員が昼夜必死で働かなくては

三年ではとても返せない。それもしんどいなあ。大学生活を
満喫することが僕の勝利やと親父はしきりに言うのやけれど」

そしてとうとう12月、大変なことが起きた。

借金一覧(後書き)

つづく

預金拘束（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

預金拘束

○金沢スーパー和平堂、外
『アルプラザ金沢』全景。

○同、内、催事場
切文字の実演販売中。焼き杉の板に切文字を貼って
その場で手作りのプレートや表札を作る。2坪の
ワゴンセール。一人の客が立っている。

(松平)「はい、いらっしゃい。可愛いプレート作りますよ。
今やったら一杯おまけしときます」

事務員が来てメモをそつと渡す。

松平、メモをじつと見詰める。

○同、電話ボックス、内
松平、電話をしている。

(松平)「どないした!」

(静子の声)「売掛金が差し押さえられて
お金が一銭もおろせへん。どないしよう?」

(松平)「なんでや? 詳しゅう説明してみい」

(静子の声)「今日、10日の入金日で銀行に行ったら・・・」

○(回想)銀行、窓口
静子、窓口で女子行員と話しをしている。
男の行員と代わる。

(行員)「保証協会さんが売掛金を全額預金拘束をされまして・・」
(静子)「そんな。私達、生活でけません。何とかありませんか？」

(行員)「どうぞ中へ入ってください。保証協会さんと連絡とって見ますから」

静子、奥の応接室へ案内される。

。(回想)同、応接室

行員、静子が座っている。

静子、電話をかけている。

(静子)「もしもし？」

(電話の声)「ああ切文字屋さんですか？お宅はもう返済が3ヶ月遅れてますので売掛金を全額預金拘束します」

(静子)「そんな急に。それやったら私ら食べていけません。どないせいつて言われるんですか？死ねつて言われるんですか？」

(電話の声)「そんなことはないでしょう。ま、至急ご主人と連絡を取ってください。(ガチャ)」

。金沢和平堂、電話ボックス、内

元の電話ボックス。

松平、受話器を握っている。

(静子の声)「それですぐ電話したんや(涙声)」

(松平)「そうか、そりゃくやしかったやろ。修羅場や、絶対何とかするから、そのまま店で待機しとき。だれや

その窓口の係りは？・・・梶山？ふむふむ」

松平、メモをして受話器を切る。

松平、メモを見ながらダイヤルをする。

（松平）「あ、もしもし梶山さんですか？今、金沢から電話してますねん。よう聞いてくださいや。先月資料をもつて事情を説明しに伺いました。担当の方が、

『よく分かりました。年明けに決算表を持ってもう一度お越しください』

と言われてましたのに。何の予告もなしに売掛金全額差し押さえとはどういうわけですか？我々庶民に死ねと言わはるんですか？」

（電話の声）「死ぬなんて？そんなことはないでしょう。」

ま、とにかく今その上司がおりませんので預金は全額

拘束いたします。規則ですので」

（松平）「法律では21万円までは差し押さえ免除のはずなのに、全額はちよつとひどいですよ」

（電話の声）「差し押さえではありません、預金拘束です。とにかく私では分かりかねますので明日ご連絡ください（ガチャ）」

松平、受話器をにらみ叫ぶ。

（松平）「あほたれ！くそっ！」

預金拘束（後書き）

つづく

庶民の味方佐藤議員（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

庶民の味方佐藤議員

○金沢和平堂、電話ボックス、内
松平が電話をしている。

（静子の声）「どやった？」

（松平）「あかんわ。前の上司が休みでらちがあかん。ほれ、あの、近くに住む庶民の味方佐藤なんとか。なにやら党の佐藤府議員さんとか大至急至急調べて」

（静子）「議員さんが私らのために動いてくれはるやろか？」

（松平）「あほ、庶民が今一家四人死に掛けてるんや。こんな時に動いてくれんかったら庶民の味方が嘘になる。必ず動いてくれはる」

松平、決意の表情で受話器を置く。

○京都、嵐電太秦駅

嵐電が走り広隆寺が見える。

○佐藤宅、外

庶民の味方佐藤府会議員のポスターが見える。

○同、居間

佐藤議員が電話をしている。

（佐藤）「それはお困りでしょう。おかしいな？おっしゃるとおり21万円までは差し押さえでけへんはずやのになあ。分かりました。今日明日私が動いてみます。最悪の場合でも年末年越し金というのがありますのでご安心ください」

。金沢和平堂、電話ボックス、内
松平、電話をしている。

（松平）「なにとぞよろしくお願いします」

松平、受話器を置き笑みながら電話ボックスを出る。

。（イメージ）和平堂催事場
実演販売中の松平。

（松平のN）「地獄に仏とはこのことや。日ごろ応援しといてよかった。

結局、保証協会の窓口が出向社員で事情の分からないもので上司から
詫びが入り翌日の夕方、家賃、学費、水道光熱費をその場で払わさ
れて、

嫁はんが手にした残金はたったの3万円。これではもう
他の所への返済は不可能だ。向こうの言い分としては、サラ金には
ちゃんと払ってるのにこっちは後回しというのはけしからんという
訳だ。それも一理ある。同じことを国金の時にも言われた」

。佐藤宅、外

庶民の味方佐藤議員のポスターが貼ってある。

。同、応接室

佐藤と松平が向かい合って座っている。
テーブルの上に借金明細が置いてある。
佐藤、じっと目を通している。

（佐藤）「これじゃあどう見ても自己破産しかありませんな。この際、ご一家一致団結して元氣一杯自己破産して、免責を一杯もろつてゼロからやり直してみてください！」

松平、目を大きく見開いて、

（松平）「は？自己破産？わかりました！」

（松平のN）「心強いお言葉、これで決まった。長い人生めったにこういう機会はない。この際じっくり自己破産なるものに挑戦してみよう」

松平立ち上がる。

（松平）「免責を勝ち取りましたならば、元氣一杯また報告に参ります。今回はほんとにありがとうございました」

松平、深々とお辞儀をする。

（佐藤）「ほやな、秋口までには免責取れるやろ。しっかり頑張ってください」

佐藤、立ち上がり松平と握手をする。

庶民の味方佐藤議員（後書き）

つづく

授業料延納届け（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

授業料延納届け

○マンション、408号室、内
居間に家族四人が揃っている。
テーブルの上にそばが四つ。

（松平）「今年もいよいよ押し迫った。皆、よう聞いてくれ。
『奨学金とアルバイトで進学、指定校の推薦を受けること。
生活のほうは何とかする』と言つて、この春スタートしたが、

君たちはしっかり頑張ってくれたのに、店のほうが失敗して
しもた。不況のせいや言つて見てもいまさら始まん。会社
は倒産、おとうちゃんとおかあちゃんは連帯保証人やから即

二人とも自己破産を申請する。店の名義はお母さんに変える。
車のローンは目録にあげたら取り上げられるから金吾が代わり
に払つていくことにする。破産が知れると店とマンションは出

て行かなあかんかも知れんから、復活するまで秘密厳守。破産
しても皆が元気で今までどおり仕事ができ、君たちが無事
大学を卒業できたら、それを我が家の大勝利とする。まずは

正月明けに一日も早く自己破産の申請を受理してもらつことと
金吾の授業料免除を勝ち取ることや！以上！」

（静子）「売掛金から家賃と学費、水道光熱費を先に振り込
まないかんぶん気が楽やけど、とにかく取立てを何とかせんと
店まで訪ねて来よる」

（松平）「そや、とにかく急がなあかん。この正月大いに売り上げて正月明けから大忙しや。皆心して夏までの長い修羅場、勝ちぬこな！ほな、年越しそば食べよか！」

（全員）「いただきます！」

○ 龜山学園大学、外
龜山大学正門。

○ 同、学生課、外
学生課のプレートがかかっている。

○ 同、応接室、内
松平と学生課長が話している。

（課長）「情況はよく分かりましたが、誠に残念なことに前期分は12月10日に締め切りました。次回は3月になります。あと一ヶ月早ければ・・・」

松平、目をむいて、

（松平）「ええっ？死亡や倒産を3ヶ月前に申し込んだかないかんかったのですか？」

（課長）「授業料延納届けの時に先を見越して免除申請をされまして、支払日に免除という形になりますが」

（松平）「そんな！先を見越してやなんて。急死とかとても見越せへんのとちがいますか？」

（課長）「申請は次回にされて当面は銀行かご親戚から

お借りになるとか、教育ローンなど斡旋しますが・・・」

（松平）「あ、お恥ずかしい話ですが、国金も銀行も教育ローンも目一杯借りてますのやもうすでに。なんとかありませんやるか？」

（課長）「休学してアルバイトでお稼ぎになって後期から復学するとか。何とか前期分を用立てて次回申し込むとかしかありませんね」

松平、課長をにらみつけて、

（松平）「とにかく急な倒産で前期の授業料は払えません。資料を取り揃えて学長様に直接お話しに行こうと思っております」

（課長）「そこまでおっしゃいますか。・・・
しばらくお待ちください。本人の成績と、他の奨学金枠がないか調べてまいります」

課長、資料を持って出て行く。

松平、額の汗を拭き大きくため息。

授業料延納届け（後書き）

つづく

破産手続き（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

破産手続き

○学園大学、学生課、応接室
待ち続ける松平、立ち上がって背伸びをする。

○同、夕方
外暗く、部屋に灯りが点いている。
待ち続ける松平。

ドアをノックする音。扉が開いて、
課長が書類と資料を持って入ってくる。

（課長）「長らくお待たせしました。ご子息の成績は優秀でしたので
諸資料を取り揃えて担任、学部長の推薦状をもらい創立30周年特別
奨学生に採用が決定いたしましたのでお知らせします。」

おめでとうございます。これが採用通知です。ここに署名捺印。
こちらはご子息。明日学生課の窓口に提出してください」

松平、立ち上がり最敬礼をする。

（松平）「ありがとうございました」

○京都地方裁判所、外
モダンな京都地方裁判所の正面。
守衛が立っている。

○同、第五民事、外
第五民事、保全、破産とある。

○同、破産、内

カウンターの向こうに職員数名。

松平、カウンターに近づく。

メガネをかけた職員宮前が応対する。

（松平）「あのう？破産の手続きに来たんですが」

（宮前）「個人ですか？法人ですか？」

（松平）「は？ええと。個人が2通と法人が1通です」

宮前、申請書を3通カウンターに置く。

松平、申請書を受け取る。

（松平）「何や、法人も一緒か」

（宮前）「え？用紙は一緒でも法人のほうは相当資料が複雑です。弁護士とご相談ください」

むっとした松平の顔。

○同、通路

松平、用紙を見ながらゆつくりと歩いている。

（松平のN）「最初の4ページほどに自己破産とは何か、和議とか整理とかがあるとか。免責にならないければ意味がないとか。権利制限とか作為は免責にならないとか

書いてある。6ページ目から申請書だ。俗称とか学歴とか結婚暦まで書かなくてはいけない。重要なのは破産に至る経緯と債権者一覧、財産目録とこの2ヶ月の経理内容だ。

各項目をチェックしていくと、ほんとに今や自己破産しかないと納得した」

○弁護士会館、外
京都弁護士会館とある。

○同、相談室、内
窓の無い薄暗い個室。
机をはさんで渡辺弁護士と松平が座っている。

（渡辺）「まあ、弁護士に頼めば自己破産2件で50万。
会社の破産で50万。計100万円は必要です」

（松平）「100万円無い人はどうするんですか？」

（渡辺）「会社のほうは後回しにして、資料をきっちり作って
ご自分でなさるしかありませんね。2件で5万円ほどでできるでし
ょう」

（松平）「そうですか」

渡辺、腕時計を見て、

（渡辺）「ちょうど1時間たちました。また何かあったらここへ」

渡辺、名刺を松平に渡す。

（松平）「ありがとうございます」

松平、名刺を見ながら扉を開けて出ていく。

破産手続き（後書き）

つづく

はりぼて代表取締役（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

はりぼて代表取締役

○京都地方裁判所、外
モダンな京都地方裁判所の正面
守衛が敬礼している。

○同、第五民事破産窓口、内
カウンターに松平が座っている。
担当の宮前が資料を見ている。

（宮前）「あとう」

（松平）「はっ、なにか？」

松平カウンターからのぞきこむ。

（宮前）「会社の取締役のままでは申請ができません。
破産の権利制限に引っかけられます。役員を降ろるか、
50万の予納金を納めて会社の破産と同時進行でいくか、

どちらか決めてください。それと各債権者の残高証明を
きっちりともらってきてください」

（松平）「え？50万？・・・役員を降ります」

（宮前）「それでは法務局で新しい謄本を上げてきてください」

○京都地方法務局、外
京都地方法務局とある。

○同、法人カウンター
松平、担当者と話している。

(松平)「治と静子が辞任して金吾を代表取締役にしてください」

(担当)「金吾さんはいくつですか？」

(松平)「この11日で19歳になります」

(担当)「19歳？未成年ですね？」

担当、机上の判例集を調べる。

松平、不安顔。

(担当)「18歳ではだめだとはつきり書いてあるんですがね。19歳、ちよっとお待ちください、上司に聞いてまいります」

担当、席を立つ。

松平、その後姿に合掌する。

x x x

担当が戻ってくる。

(担当)「お待たせしました。親の同意書と戸籍謄本の写しがあればいけるそうです」

松平、額の汗を拭きながら、

(松平)「・・・で、費用のほうは？」

(担当)「2万円です」

松平の啞然とした顔、ほころぶ。

○同、外

法務局正面。

『1週間後』のタイトル。

松平、うれしそうに謄本を手に行っている。

。マンション、408号室、内、夜

鍋の用意がされている。

コップにビールが注いである。

松平、膳本を見せながら、

（松平）「ここに有限会社松平代表取締役松平金吾が誕生した」

（那智）「ほんま？みせて、みせて」

那智、膳本を手取る。

静子が覗き込む。皆笑顔である。

（松平）「（金吾に）お前は何もせんでええから、形だけの
はりぼて代表取締役や。お父とお母で稼ぐからしつかり勉強
しいや。これからは金吾から給料をもらうことになる」

（那智）「わ、ええな！」

（金吾）「あほ、給料ゼロやで、わし」

（那智）「ほんま？」

（松平）「ま、当然やな。とにかく乾杯しよう」

皆コップを持つ。

（松平）「新社長、おめでとう！乾杯！」

（皆）「おめでとう！乾杯！」

皆で乾杯をする。

楽しい夕食が始まる。

（静子）「奨学金も決まったし」

（松平）「自己破産も何とかなりそうやし」

（那智）「万々歳や」

（金吾）「あほ、これからが大変なんや」

x x x

皆満腹でくつろいでいる。

鍋も食器も空である。

静子が片付け始める。

電話が鳴る。3回コール。留守電。

奈良の義姉の声。

（奈良姉）「静子さん、奈良の北岡です。今主人亡くなりました。明晩通夜。あさって告別式。草津の姉さんにはもう知らせてあります。よろしく（ガチャ）」

皆顔を見合わせる。

また電話が鳴る。3回コール。留守電。

（草津姉）「草津の姉やけど？」

静子、受話器を取る。

（静子）「ああ、姉さん？今留守電で聞いた。明日お通夜やね？」

3人大きくため息をつく。

はりぼて代表取締役（後書き）

つづく

耐えよ！受理までの2週間（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

耐えよ！受理までの2週間

○葬儀場、内、夜

棺の前で奈良の姉と松平が話している。

（奈良姉）「葬儀代も出へんから主人が貸した110万円はよ返してください。ここに借用書を私宛にきっちり書いてここにはんこ押してくださいや」

奈良姉、紙切れをテーブルに置く。

松平、書き始める。

（松平）「そやけど、一括じゃ無理ですよ。今破産しかけてますから」

（奈良姉）「何やて？破産？」

（松平）「ええ、まもなく申し立てが受理されて、裁判所から連絡がいくと思いますけど」

（奈良姉）「それでも払ってもらえますな？」

（松平）「免責取れたら少しずつでも返していきます」

（奈良姉）「ほなそう書いて署名してはんこ押しといてや」

松平、真剣に紙に書いている。

（松平のN）「しかし貸主が死んでもたら返済は？免責が降りれば返さんでもええと言うのが免責の主旨やのに。

これがなければ、ほんま、自殺するか夜逃げするかしか

あらへんのに。このおばちゃん、免責の意味を

知らへんのとちゃうやるか？」

松平、真剣に書いている。

ちらと顔を上げて義姉を見る。

じろつとにらみ返され目を伏せる。

○（イメージ）マンション、1F。プロテ---

408号室を押し続ける怖そうな男。

（松平のN）「この2週間が長かった」

○（イメージ）同、

ポストに『金払え！』のメモがわざと見えるように入れてある。
慌てて取り除く静子。

○（イメージ）マンション、408号室、内
誰もいない部屋に電話が鳴っている。

（留守電の声）「法的手段に訴えることになりましたのでお知らせ
します（ガチャ）」

（同）「事故扱いとし口座を閉鎖させていただきます（ガチャ）」

（同）「裁判所から通知がいきましたら必ず出廷してください（ガ
チャ）」

（同）「近日中にお店のほうへ直接伺います。覚悟しといてくださ
い（ガチャ）」

○映画村、切文字屋、外

静子、一人でいる。

営業中だが客は全くいない。

スーツ姿の若いひ弱そうな男が現れる。

(男)「こんにちは。亜細亜信販のものです、若林静子さんですね」

(静子)「そうです?」

男、近寄りささやく。

(男)「少しでも払っていただけませんか?」

(静子)「全然手持ちがありません」

(男)「今日の売り上げからでも何とかありませんか?」

(静子)「見ての通りのお客さんです。それにもし売れたとしても売り上げは全額映画村に入金せんとあきません」

男、隅のほうに行き、

(男)「ちょっとここに座らしてもらってもいいですか?」

(静子)「ええ、どうぞどうぞ」

男、隅に座る。

(男)「毎日、こんなんですか?」

(静子)「毎日、こんなんです、日曜でも。人件費がでえへんから仕入れの

店舗は皆撤収しました。今残っているのはメーカー直販の店ばかりです」

(男)「10年前に来た時にはすごい人やった」

(静子)「10年前と今とは大違いです、どこでも!」

(男)「……………」

しょんぼりと座り続ける二人。

耐えよ！受理までの2週間（後書き）

つづく

申し立てが受理された（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

申し立てが受理された

○映画村、切文字屋、外、夕

閉店の戸締りをしている静子。

蛍の光がなっている。

怖そうな大男が一人現れる。

（大男）「切文字屋でここか？あんたんとこ金払わん気か？
毎日来るよつてに、旦那にそう言うとき！」

大男、去る。

他の店のものが見ている。

主任が近づいてきて、

（主任）「誰？いまのひと？」

（静子）「車検屋の親父。新車がすぐ壊れてサーヴィスで修理
というたのに金取りよると言つて主人が払つてへんのよ」

（主任）「買った車がすぐ壊れた。そりゃあサーヴィス修理やな」

（静子）「そやろ。タイガーじゃもう買わんとき」

（主任）「そやな。今時サラ金の取立てでも規正法ができて
おとなしいのに、今の親父はえげつないなあ」

（静子）「そやろ。タイガー丸出しや」

主任、周りで見ていたものと大笑い。

○京都地方裁判所、外

モダンな正門。

守衛が車を誘導している。

○同、通路

松平、資料を抱えて歩いている。

（松平）「これで6回目や。もう完璧やろ」

○同、第五民事破産窓口

カウンターに松平が座っている。

担当の宮前が資料を見ている。

（宮前）「あのう」

（松平）「はっ？」

松平、カウンターから覗き込む。

（宮前）「これでいけるでしょう」

松平、喜びの顔になる。

（宮前）「5階の会計に行って予納金を払ってきてください」
大きくうなづく松平の顔。

○同、会計、外

会計のプレートがかかっている。

○同、会計窓口カウンター

松平、カウンターに資料を置き、

（松平）「すみません。やっと受理されました。いくら払ったらええですか？」

（職員）「2万4千円です」

松平、2万4千円払う。

（職員）「これが領収書で、こちらに受理番号が書いてあります。」

平成14（ホ）123という番号があなたの番号ですので、今後審議はすべてこの番号で行いますので憶えといってください」

（松平）「はい、わかりました」

○同、通路

通路を歩む松平。

（松平のN）「この番号が大事なんや。はよ債権者に手紙をださなあかん」

○手紙の文面

手紙の文面が写っている。

（松平のN）「このたび負債合計1300万円が返済不能となり、京都地方裁判所に自己破産の申し立てをし、本日受理されました。受理番号は平成14（ホ）123番です。本日以降の審議手続きにご協力のほどよろしくお願い申し上げます」

申し立てが受理された（後書き）

つづく

法人解散（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

法人解散

○マンション、全景

『それから数日後』のタイトル。

○同、408号室、内、夜

家族4人夕食を食べている。

（静子）「なにかすごく静かやねえ」

（金吾）「電話が無いからや」

（那智）「そや、留守電がぜんぜんあらへん」

（静子）「店にも一切かかってこんようになった」

（松平）「いうてもまだ安心はでけへん、免責を勝ち取るまでは。あと半年や！」

（那智）「そやけど。やっぱり静かやわあ」

皆で笑う。

○同、電話口、夜

松平、電話をしている。

（松平）「税理士の大西さんおられますか？」

（大西の声）「はい大西です。松平さん、ひさしぶり。

元気してた？会社のほうは？」

（松平）「独立はしましたが、倒産しました」

（大西の声）「そうでつか。一人でようやはりましたな。そやけど。代表者が息子さんになったら会社の借金、

全部息子さんにいきまっせ。代表者なしでつっぱりなはれ」

（松平）「ゲッ！」

松平の驚きの顔。

○法務局、外

京都地方法務局とある。

○同、法人カウンター

担当と松平が話している。

（松平）「やっぱり19歳じゃ無理や。代表取締役なしではあきまへんか？」

（担当）「あきまへん」

（松平）「どうしてもあきまへんか？」

（担当）「どうしてもあきまへん」

松平、すつくと立ち上がる。

（松平）「ほな、10分したら戻ってきます」

○同、トイレ、内

大使用中の扉。

（松平の声）「ナム、うーん。そや！」

○同、法人カウンター

担当がいる。

松平、入ってきてカウンターに座る。

（松平）「会社を解散することにしますわ」

（担当）「解散。そうでっか。ほなこの手順で」

担当、手際よく資料を整え、

（担当）「1週間後に謄本上がります」

（松平）「もし裁判所のほうに届けを出して、いつまでも解散結了がなされなかったら？」

（担当）「ずっとそのままです。また立て直して復活することもあります」

（松平）「えっ？」

（担当）「ええ、復活です。届けを出してもらえば有限会社としてまた復活できます」

（松平）「なるほど、ようわかりました。で、今日の手数料は？」

（担当）「5000円です」

（松平）「えっ5000円！おおきに」

松平、深々と頭を下げる。

法人解散（後書き）

つづく

法廷（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

法廷

○京都地方裁判所、外

モダンな裁判所正面。

守衛が大あくびをしている。

○同、正面玄関受付カウンター

松平、カウンターに資料を出す。

（松平）「法人解散届けを出しに来ました」

（受付）「清算登記簿謄本、もっておられますか？」

（松平）「はい持ってます。これです」

（受付）「ここで受け付けますので、この事例集の中で最もふさわしい貸借対照表、財産目録を書き出して解散届けに添付してください」

松平、カウンターの隅で資料を書き込む。

（松平）「これでよろしいでしょうか？」

受付、資料に目を通し、

（受付）「これで結構です。受理番号は（へ）の1番です」

（松平）「（へ）の1番？」

受付、奥に行こうとする。

（松平）「あ、あのう。手数料は？」

（受付）「いりません。受理はいたしました。が、終了までに
予納金が50万円要りますので用意しといてください」

受付、さっさと奥へ行く。

松平、ぽかんと立ち尽くしている。

（松平）「50万？・・・こいつら、ぐるや」

○京都地方裁判所、外

モダンな正面。

守衛がゴルフの素振りをしている。

○同、民事207号法廷、外

通路、民事207号法廷の標示板。

15分刻みで開廷している。

松平他10人ほどが座っている。

法廷の後ろ扉ののぞき窓を誰かがのぞいている。

2月8日の時間割が壁に貼ってある。

弁護士がおばさんと中に入る。

入れ代わりに若い娘と老弁護士が出てくる。

（老弁護士）「よかったですね、次は免責だ」

（係りのひと）「松平治さん、静子さんなかへ」

二人立ち上がる。

○同、法廷内

壇上に裁判官席があつて、その下に書記席。

中央に半円形の証言台。

左右に検事席と弁護士席。

柵がしてあつて傍聴席。

後ろ扉を開けて二人中に入る。

証言台の前に長机。

裁判官が一人座っている。

向かいに二人が座る。

広い法廷の中で三人が密談しているみたい。

（裁判官）「松平治さんですね？」

（松平）「はい、そうです」

（裁判官）「生年月日を言って下さい」

（松平）「昭和21年12月7日です」

（裁判官）「この内容に間違いありませんね？」

（松平）「はい、間違いありません」

（裁判官）「松平静子さんですね？」

（静子）「はい、そうです」

（裁判官）「生年月日を言って下さい」

（静子）「昭和25年4月12日です」

（裁判官）「この内容に間違いありませんね？」

（静子）「はい、間違いありません」

（裁判官）「それでは1週間後に破産宣告が出されます。財産がゼロなので同時廃止。免責の申請にはいりまして各債権者に通知を出します。4月12日異議のある方を

まじえて免責の審尋をいたします。この日だけは絶対に欠席のないように、不利になりますから必ず出廷してください。以上、閉廷！」

次の人たちが入ってきている。
二人急いで法廷を出る。

法廷（後書き）

つづく

破産宣告（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

破産宣告

○京都地方裁判所、通路

松平と静子が並んで歩いている。

（松平）「まだまだ先は長いなあ」

（静子）「焦らんと、じっくり仕事がんばろう」

（松平）「そや、それが1番や！」

○マンション、1Fプロテュー

静子、ポストを確認している。

茶封筒2通がきている。

静子、封筒を取り出しながら、

（静子）「裁判所からや！」

○同、408号室、居間

松平が手紙を広げて読んでいる。

（松平）「松平治を平成14年2月15日午後5時破産宣告する。これは決定正本である。免責申し立てにより平成14年4月12日午前10時民事207号法廷にて審尋をおこなう。出廷のこと」

二人顔を見合わせてうなづく。

○同、夜

4人食事を終えた所である。

電話が鳴り静子取る。

（草津姉）「（電話）裁判所から来たで。異議がなければ

出廷は不要と書いてあるけど？」

（静子）「そうなんや。異議申し立ててもその人にだけ返済するということだけへんで、結局却下されるんや」

（草津姉）「（電話）そうか、ほな、しゃあないなあ。

奈良の義姉さんどこにも来たらしい」

（静子）「サラ金もよう分かってるから誰も当日来ん
そうやて、裁判官が言うとった」

（草津姉）「（電話）そうか、わかった（ガチャ）」

静子、受話器を置く。すぐまた電話。

静子が出て松平に代わる。

（松平）「黒田さん、ご迷惑をかけてほんとにすみません」

（黒田）「（電話）どないされたんです？やはり不景気やからですか？

弱気になってはあきませんよ。何とか踏ん張って頑張りなはれ」

（松平）「おおきに。名義変更して店は元のまま営業してますので
ご安心ください。わざわざどうも、必ず立ち直ります」

松平、目に涙を浮かべてゆっくりと受話器を置く。

○マンション、1Fピロティー

静子、ポストを確認する。

茶封筒が1通きている。

静子、確認して、

（静子）「税務署からや！」

静子、大急ぎでエレベータへ走る。

。同、408号室、内

ドアが開いて静子が入ってくる。

（静子）「おとうちゃん！税務署からや！」

松平、仏間から出てきて封筒を受け取る。

（松平）「税務署？『貴社は廃業との届けが出されて
おりましたが、調査の結果財産があることが判明
いたしましたのでスーパーの売掛金を差し押さえます』

なんやて！ほんまもんの税務署の差し押さえや！
ちゃんと誓約書を書いて秋口に全額払うとハンコ
押してきたのに、きたないやつやなあ。

保証協会の預金拘束といい、税務署の差し押さえといい、
こういうやり方で庶民は路頭に迷うんやろな。
くそつたれ。ちょうど税金分だけの売掛でよかったわ。

破産しても税金は免責にならへん、税務署だけは
一生気をつけよう」

入り口の扉が開いて、ブロンドのアフロヘアにした
那智が帰ってきた。金吾も部屋から出てきて、皆で、
（皆）「なんや、その髪ーっ！」

破産宣告（後書き）

つづく

免責決定（前書き）

この作品はシナリオです。読みにくいでしょうがよろしく願います。

免責決定

○京都地方裁判所、外
モダンな正面。

守衛、ゴルフの素振り、Vサイン。

○同、民事207号法廷内

広い法廷の中央に長机を挟んで、
裁判官と松平夫婦が座っている。

（裁判官）「今日は4月12日、2回目ですね？」

（二人）「はい」

（裁判官）「名前と生年月日を言ってお下さい」

（松平）「松平治、昭和21年12月7日生まれ」

（静子）「松平静子、昭和25年4月12日生まれ」

（裁判官）「はい結構です。あれから2ヶ月がたちました。
債権者の方々にも通知を出しましたが、どなたも見えて
おられません。これは20数件の債権者の方々がお二人の

免責に異議なきものと認めます。念のためにさらに1ヶ月
の猶予期間を取りますので異議申し立てがなければ、5月
中旬に免責決定。さらに公告されて6月の中旬に確定になれば、

官報の破産者名簿から抹消され復活復権して今まで通りの
権利を行使できます。お二人で1300万円、20数件の
方々にご迷惑をかけたのですから、今後は生活をつつしみ

ちゃんと計画を立てて二度とこういうことにならないように、しっかりと生活をしていてください。以上。閉廷！」

(二人)「ははー」

二人、深々と頭を下げる。

○同、通路

松平と静子が並んで歩いている。

(松平)「まだやがな。決定まで1ヶ月、確定まで1ヶ月やて」

(静子)「気長に行こうな、とうちゃん」

○イメージ、映画村

修学旅行で一杯である。

大忙しの『切文字屋』。

○映画村、西門守衛室前

守衛がいる。

静子、礼をして通りかかる。

(守衛)「切文字屋さん、ちょっと」

(静子)「え？何？どないしたん？」

(守衛)「二藤さんそこ、おととい、夜逃げしはった」

(静子)「えっ？ほんま？」

○回想、映画村、関所

静子、二藤の社長と立ち話をしている。

(二藤)「そやけど今が1番しんどい時や。そのうち、きつとええことある。今、しっかり辛抱しときや」

涙ぐむ静子の顔。

○映画村、切文字屋、外

雨が降っている。

切文字屋の前の植え込み、アジサイが美しい。
静子、一人でぽつんと座っている。

○マンション、1Fプロテュー

ポストを確認する静子。後方に

両手一杯の食料を下げた松平。

2通の茶封筒がきている。

松平、周りを見回し、

（松平）「今、あけてみ」

静子、封筒を開け松平に見せる。

松平、荷物を持ったまま大声で読む。

（松平）「『5月23日付けで松平治を免責する。
これは決定正本である』やったー！大勝利や！」

叫ぶ松平の大きな顔。

免責決定（後書き）

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3578e/>

はりばて代表取締役

2010年10月9日11時18分発行